

アメリカ帝国主義を アジアから追い出そう!

外 文 出 版 社
北 京

アメリカ帝国主義を
アジアから追い出そう！

外文出版社
北 京

アメリカ帝国主義をアジアから追い出そう！

1960年9月 初版発行

定価30円

出 版 者 外 文 出 版 社

中 華 人 民 共 和 国

北 京 阜 成 門 外 百 万 荘

編 号: (日)3050—355

00062

編集者の言葉

六月の後半、アメリカ帝国主義の頭目アイゼンハワーが西太平洋へやつて来て、強盗旅行をおこなっているとき、全中国でアメリカ帝国主義に反対する大デモが烈火のように燃えひろがった。この国をあげての反米大デモは、六月十七日、福建前線における中国人民解放軍の金門砲撃という反米武力示威によつて火ぶたをさられた。ついで六月二十一日から、全国の各大都市で「米帝侵略反対、だんこ台湾解放、世界平和擁護宣伝週間」がもよおされた。さらに六月二十七日には、全国の二九の大、中都市で民兵の反米大示威がおこなわれ、中国の領土台湾にたいするアメリカ帝国主義の不法占領にだんこ反対し、台湾をかみはず解放するというゆるぎない意志と決意が表明された。

アメリカ帝国主義は中国人民の不倶戴天の仇敵である。アメリカ帝国主義は中国の領土台湾を十年間も武力によつて侵略、占領し、台湾のわが同胞を一貫して残酷に奴隸化し、抑圧するとともに、「二つの中国」をつくり出す陰謀をめぐらし、台湾を侵略戦争をひきおこすための跳躍台にかえようとしている。「疫病神」アイゼンハワーのこんどの台湾「訪問」は、六億五〇〇〇万中国人民とアジア諸国民にたいするかさねがさねの公然たる挑発である。中国人民は、アメリカ帝国主義のこうした

ゆゆしい挑発行為を絶対に容忍することができない。中国人民のおこなった反米武力示威、福建前線における天地をゆるがす砲声は、中国人民の憤激と、アメリカ帝国主義の頭目アイゼンハワーにたいする偉大な中国人民の侮りとさげすみをあますところなくしめすものである。

アメリカ帝国主義はまた、アジア人民と全世界人民のいの一の敵である。かれらはいたるところで侵略をおこない、平和を破壊し、悪事のかぎりをつくし、災難と貧困をうみだしている。さいきん、アイゼンハワーは四カ国政府首脳会談を一手にぶちこわしたのち、またもや極東にやつて来ていわれる「訪問」なるものをおこなったが、そのねらいは、ひきつづき情勢の緊張を激しくし、新たな侵略戦争を準備し、アジア人民にたいする抑圧と奴隸化をつよめることにある。このことは、アジア人民と全世界人民をあくまでも敵とするアメリカ帝国主義の侵略的本性をいちだと暴露したものである。だからこそ、「疫病神」アイゼンハワーのゆくところ、そこにはかならず人びとの怒りにみちた声があり、拳があがつたのである。フィリピンの人民は石つぶて彼を「歓迎」したし、日本国民の強力な闘争はさらに「疫病神」に門前払いをくらわした。中国人民は一貫して、帝国主義に反対する各国人民の正義の闘争を自分自身の闘争とみなしてきた。このたび中国人民がおこなった全人民的な反米大デモはまた、アジアの諸国民と全世界の人民がアメリカ帝国主義の侵略に反対し、世界平和をまもるためにおしすすめている正義の闘争へのだんことした支持にはかならない。それは諸国民の闘争が中国にたいして力強い支持をあたえてくれているのと同様である。

本書には、中国人民の反米大デモに関係のある文献が収録してある。これは、アメリカ帝国主義に

反対する共同の闘いのなかでの中国人民と各国人民の団結とその相互間の支持を物語るものである。われわれは、各国人民がこうした団結と相互の支持に依拠して、あくまで闘いぬくならば、アジアの奴隸化と全世界の制覇をたくらむアメリカ帝国主義の気ちがいじみた侵略計画と戦争政策をかならず徹底的に失敗させることができると確信している。

目次

中国人民解放軍福建前線司令部の、 台湾、澎湖、金門、馬祖の軍民同胞に告ぐるの書……………	一
各国人民は帝國主義を徹底的にうちやぶることが出来るし、 またかならずうちやぶるであらう……………	宋慶齡……………五
アジアの人民がかれをとつちめるのを待つとしよう！ ——アイゼンハワーの極東旅行を評す……………	(一九六〇年六月十三日付人民日報社説)……………二
見よ、今日の極東は果して誰の天下か……………	(一九六〇年六月二十一日付人民日報社説)……………六
アメリカ帝國主義をアジアから追い出そう！……………	(一九六〇年六月二十五日付人民日報社説)……………五
中国人民は永遠に朝鮮人民と一致団結して だんこアメリカ帝國主義の侵略を粉碎し世界の平和を擁護する……………	郭沫若……………三
侵略政策を固持するアメリカ帝國主義は かならず自業自得のはめにおちいるであらう……………	楊 勇……………四

中国人民解放軍福建前線司令部の、

台湾、澎湖、金門、馬祖の軍民同胞に告ぐるの書

台湾、澎湖、金門、馬祖の軍民同胞諸君

アイゼンハワーは諸君のところを「訪問」しようとしている。来る者は善ならず、善なる者は来らずである。かれはアメリカ帝國主義の頭目であり、かつてのダレスとおなじく、一貫して諸君にたいし腹に一物もつてゐる。一年あまりまえ、ダレスは諸君のところへいつて、諸君に圧力をくわえ、「二つの中国」をつくるアメリカの計画に諸君を服従させ、台湾を完全にアメリカの植民地におとせうとした。そのとき、われわれは大砲をうち、諸君はアメリカ人に抵抗し、ダレスは思いどおりにいかなかつた。ダレスは死んだが、台湾を併呑しようとするアメリカのもくろみはけつしてなくなつてはいない。アイゼンハワーの政策とはつまりダレスの政策である。アイゼンハワーはわれわれの敵であり、また台湾、澎湖、金門、馬祖のすべての愛国同胞の敵である。

アメリカ帝國主義の名声はいよいよ鼻もちならぬものになつてゐる。ついさきごろ、アイゼンハワ

―は四カ国政府首脳会談をぶちこわして、全世界人民の反対にあつた。アジアの多くの国々の人民は、アメリカから長いあいだひどい圧迫をうけ、アメリカにたいする反抗もこのうえなく強烈である。アイゼンハワーがこんど太平洋の東側から太平洋の西側にとんできたのは、とりもなおさずアジアにおけるアメリカの侵略陣地を維持し、アジア各国人民にたいするアメリカの圧迫をつよめんがためである。このような「疫病神」にたいしては、人びとは、いかにかれを「歓迎」すべきかを知っている。このたびアイゼンハワーが「訪問」とすると公表したところでは、いたるところで反対の波がまきおこっている。アイゼンハワーはかんねんのほぞを固めてやつて来たのである。アメリカ帝国主義とその走狗がどんなに手ごわいかなどと絶対に考へてはいけない。南朝鮮人民、トルコ人民が起ちあがつて一撃食らわすと、もうアメリカ帝国主義はばたし、アメリカの二人の忠実な走狗李承晩、メンデレスはひきずりおろされた。アメリカは日本に重兵を駐屯させており、岸信介賣国政府は一途にアメリカと軍事同盟をむすぼうとしている。だが、日本国民は承知せず、闘争につぐ闘争をもつてして、天地をひつくりかえさんばかりである。アイゼンハワーは英雄的な日本国民から「歓迎されぬ人間」と宣告され、かれの「露払い」は出鼻をくじかれ、かれ自身も玄關払いを食わされた。フィリピンはアメリカの支配をうけることすでに久しく、その人民もすでに起つてアイゼンハワーの強盜旅行に反対している。台湾、澎湖、金門、馬祖の愛国同胞の諸君も当然、アイゼンハワーが諸君の頭上で威張りちらすのを許すことはできない。三年前、諸君は台北のアメリカ「大使館」をぶちこわしたが、これは反米愛国闘争の光榮ある記録である。アメリカの忠実な走狗になつて人のいいなりにな

れば、まともな最期をとげることはありえない。われわれは、諸君がアメリカからいじめられるのをたえしのぶことにけつして甘んじないことを知っている。アメリカ人は、諸君のところで、「台湾の自治」を策動し、反対派をこしらえ、すでに諸君を頭痛鉢巻にさせている。事ひとたび急をつければ、アメリカ人はかれの走狗に義理などたてはしない。李承晩、メンデレスこそは前車のかがみである。およそアメリカにくつついて行く者は、こうした状況を見て、なさない気持にならずにおれるだろうか？ 愛国心をもつたいつさいの中国人は、すべて団結して、アメリカ侵略者とだんこ闘うべきである。

アイゼンハワーの強盜旅行に反対するアジア各国人民の正義の闘争を支持するため、アイゼンハワーの強盜旅行に反対する台湾、澎湖、金門、馬祖の愛国同胞の正義の闘争を支持するため、偉大な中国人民の、アイゼンハワーにたいするあなどりとさげすみをしめすために、われわれは、奇数日砲撃の慣例にしたがい、六月十七日アイゼンハワーが台湾に到着する前夜および六月十九日アイゼンハワーが台湾を離れるさいに、金門前線において反米武力示威をおこない、大砲をうって「迎え送り」することに決定した。アメリカの武装力は、近來たえずわれわれにむかつて威嚇と挑発をおこなっている。われわれのこの決定は、まったくアメリカ帝国主義にたいする示威のためである。アメリカの圧力に屈服することをのぞまぬ台湾、澎湖、金門、馬祖のすべての愛国同胞は、かならず賛成であるにちがいない。諸君の生命の安全を保護するために、とくに事前に言っておく。砲撃期間は、諸君は、誤つて負傷することのないよう、ぜひ安全地帯に避けて、出て来てはいけない。諸君の船も、この二

日間はやはり注意し、危険をさけるため、けつして砲撃地帯に近よつてはならない。もしもわれわれの勧告をまもらず、甘んじて虎狼の荷担をし、あえて偉大な反米武力示威を攪乱するものがあるなら、かならず嚴重なこらしめをうけるであろう。まえもつて告げなかつたなどと言うなかれ！

中国人民解放軍福建前線司令部

一九六〇年六月十七日

各国人民は帝国主義を徹底的に

うちやぶることが出来るし、またかならずうちやぶるであろう

宋 慶 齡

中国人民は、目前の世界情勢にかんがみて、アメリカ帝国主義反対の闘争の新たな潮流をまきおこしている。わたしたちは多年にわたる困難にみちた闘いをへて解放をかくとくし、今では自己の運命の主人公となつてゐる。わたしたちはいま、強大な、繁栄した社会主義の国をきずつつある。しかし、アメリカ帝国主義は、わたしたちの人民共和国が誕生したその日から、わたしたちにたいして敵対的な態度をとつてきている。彼らはたえず挑発をおこない、公然とわたしたちの隣国に戦争をしかけ、今また、中国、ソ連、朝鮮、ベトナムなどの国ぐにの人民にたいして、さらに大きな軍事的攻撃をおこなおうとその準備をすすめてつある。彼らの凶悪無比な計画を遂行するために、アメリカ帝国主義は軍事力によつて中国の領土である台湾とその他の島々を占領し、日本、フィリピン、タイその他の国々を彼らの軍事基地にしたてあげ、中国、その他の社会主義諸国および中立政策をとつてい

る国々にたいして、彼らが経常的に転覆活動をすすめたり、軍事行動をとったりするための跳躍台にしている。こうして、占領された地域の人民にはかぎりない負担がおしつけられ、その生活は破壊され、墮落させられている。彼らの卑劣な目的は、アジア各国の人民の間に対立をつくり出し、最後には「アジア人をアジア人と戦わせ」、それによつてアメリカ帝国主義が利益をおさめることにある。

こうしたことは、生活のなかの具体的な事実ではなからうか？ これこそ多年らいつづいて来た実情ではなからうか？ したがつて、わたしたちの領土台湾とその他の島々を解放しようという中国人民の決意とアメリカ帝国主義者にたいするわたしたちの義憤が、西方のある種の人びとの間に、驚きと不安をよびおこすようなことがありえようとは、これこそ不思議なことではなからうか？ わたしたちはそうした人びとにむかつて言わなければならない。友よ、極東の緊張した情勢の原因を中国にもとめることはしないでください。わたしたちは絶対に誰をも脅かしはしません！ その原因は、公然と中国を侵略し、またいまもつと大きな侵略を準備し、同時に、その他のアジアの民族と国々にを奴隷視しているアメリカ帝国主義にあるのです！ そしてもしあなたが国際間の緊張をとりのぞこうと思ひ、正義と世界の平和を守ろうと思うなら、帝国主義を消滅するための人民の闘争に参加するのです！ と。

アイゼンハワーは、現在すでにシツポをまいて逃げて帰つた。彼の「諒解を促進する」ためのアジア諸国めぐりは、たしかに「成功」した。なぜなら、それによつてアジア諸国の人民は、アメリカ帝国主義が彼らにたいして抱いている罪惡的な意図を徹底的に了解したからである。しかし、アメリカ

最大の独占資本グループの直接の代表者アイゼンハワーが出くわした挫折は、巨浪のように西方全体の外交界をゆさぶつた。中国人民の全力をあげての支持をえた日本国民の反米愛国の正義の闘争は、すでにこのいわゆる「平和の王子」の正体——彼がもともと帝國主義的搾取の特権をたもととし、はては拡大しようとさえたくらんでいる、そして全世界各国の人民に武力と暴力をもちいようと画策している卑劣な陰謀家であることをバクロした。現在、彼とその仲間はずでにアジア諸国人民、ことに日本国民と中国人民がこうした強盜的行爲にたいしてどんな反応をしめしているかを知っている。アイゼンハワーは、この度の「旅行」の恥ずべき失敗の責任を中国におしつけようとしている。彼はわたしたちが、彼が「平和の代表」として「センチシヨナルな成功をおさめる」のをねたんでいるとでも考えているようだが、こんなことを言うのは、いくらかでも自分の胸のモヤモヤをはらしたいそのために自分で自分のほつたを殴るようなものである！

もし中華人民共和国にたいして下司ばつた悪罵をあびせなかつたとしたら、それこそかえつて不思議である。わたしたちの平和外交政策は、つねに誹謗をうけている。アメリカの宣伝機関はやつきになつて活動し、中国を隣国の間で孤立させ、またわたしたちとわたしたちの偉大な盟邦ソ連との關係にヒビをいれようとのぞんでいるのだ。

しかし、紳士のみなさん、あなたたちは永遠に成功することはない！ 中華人民共和国はわたしたち六億五〇〇〇万の人民全体を代表している。偉大な中国共産党の指導の下に、わたしたちはすでに起ち上がっている。わたしたちは自己を守る用意があるし、またその能力をもっており、すべての抑

圧された人民の民族独立と民主と平和をめざす正義の闘いを援助する用意があるし、またその能力をもっている。わたしたちは、ソ連および社会主義陣営のその他の国ぐにと肩を並べていつしよになつてゐる。わたしたちの友誼は永遠のものである。わたしたちの人民共和国が誕生したその日から、これは一貫して中国の政策であつた。それは今日においてわたしたちの政策であり、将来も永遠にわたしたちの政策である。アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国の人民はこの点をはつきりと知つてゐる。彼らは中国が平和共存の五原則とバンドン精神の提唱者であると同時に、またこれらの原則と精神のもつとも確固たる守り手の一人であることを知つてゐる。彼らはまた、中国人民が帝国主義に反対するという点で一貫していささかも曖昧さをもつていないことを知つてゐる。

帝国主義の新聞、放送の訓練された道具は、中国が平和共存を望んでいないと中傷し、わたしたちがわたしたちのこうした基本政策を放棄したと言つてゐる。これはまづたくのでたらめである。

中国はいかなる人とも平和共存することをのぞんでゐるし、帝国主義とさえ平和共存したいとのぞんでゐる。事実、わたしたちはそれと共存しなければならぬ。帝国主義の存在は一つの客観的な現実である。社会主義国家の存在もまた客観的な現実である。現在、この二つは世界に並存してゐる。しかしわたしたちが帝国主義との平和共存をのぞむことは、けつしてわたしたちが帝国主義にへいこらして節をまげるのをのぞんでゐることを意味しはしない。わたしたちは、アメリカ帝国主義がわたしたちの領土を略奪することを断じて許すものではない。わたしたちは無数の犠牲をはらつてはじめてわたしたちの国の独立とわたしたちの社会主義革命の成果をかちとつたのであつて、貪欲あくこと

を知らぬ帝國主義者と平和を保つというこうした根拠のない幻想のために、そうしたものを放棄したりするようなことは断じてありえないのである。わたしたちはまた、帝國主義がその他の国ぐにの人民を砲弾の餌食にし、それらの人民の国土を社会主義國に反対し、世界平和に危害をくわえるための軍事基地にするのを見過ぐすことをのぞんでいない。

問題は、平和共存が可能であるかどうかは、けつしてたんにわたしたちによつて左右されるのではないという点にある。帝國主義者の政策は彼ら自身が決めるのである。わたしたちは畢竟彼らの政治顧問ではないし、彼らの参謀長でもない。帝國主義はまだ息のあるかぎりその一息をつくまにも、他人を搾取し、暴力によつて他人を支配する目標を実現することを考えるものだ、ということは歴史と経験がわたしたちに教えているとおりである。

これはつまり、もし帝國主義との共存を平和共存たらしめようとするのであれば、各国人民は帝國主義者の陰謀詭計にたいしてかならず高度の警戒心を保ち、高度の戦闘性と闘争精神を保ち、また彼らにむかつてわたしたちが決して彼らの非行を許すものでないことをはつきりと表明しなければならぬ、ということである。

この角度から見ると、日本国民がいますすめているアメリカ帝國主義と日本反動派に反対する、空前の、英雄的な闘いのなから必要な教訓を汲みとることができる。もし日本国民がひきつづきこの方式によつて彼らの意志を表現してゆくならば、彼らはまちがいなく勝利から勝利へと進んでゆくであろう。彼らはこの面で中国人民の全力をあげての支持をえているし、中国人民は彼らの事業

が正義になつてゐることを理解しており、日本国民が現在極東と世界の平和を守る闘いにたいしておこなつてゐる巨大な貢献を重視してゐる。

アメリカ帝国主義は、あらゆる国ぐにの人民の敵である。アメリカ帝国主義の本性は変わらないだらうし、また、変わることはありえない。しかし、わたしたちの生活してゐるこの時代は、他の時代とはちがつてゐる。これは人民の興起する時代であり、人民がすべての圧迫者を圧倒する時代である。したがつて、これは帝国主義の滅亡の時代である。毛沢東主席が指摘しておられるように、もしあらゆる国々の人民、帝国主義に反対するすべての人民が、もつとも広はんな統一戦線をむすんでこの人類を害するものに反対するならば、そうしたすばらしい事はいつそう急速に実現しうるのである。一致団結した諸国人民の力はうちかつことのできないものである。わたしたちはアメリカ帝国主義者に正々堂々と言つてやろうではないか。さつさと古巣に帰れ、そして他人の事に干渉するのをやめよ、世界の平和を脅かすことをやめよ、と。各国人民は、かたく隊伍をくみ、一心同体となるかぎり、帝国主義を徹底的にうちやぶることができるし、またかならずうちやぶるであらう。